

土佐黒潮天日塩が平成21年度『本場の本物』に認定されました

◆『本場の本物』とは？

日本各地の豊かな食文化を守り育てるために設けられた標準基準で、選ばれた食品だけがつけられるマークです。

その土地土地において伝統的に培われた「本場」の製法で、地域特有の食材などの厳選原料を用いて「本物」の味をつくりつづける。製造者の【原料】と【製法】へのこだわりのあかしとなるのが『本場の本物』です。

平成17年度から全国で19品目が認定を受けており、高知県では大豊町の碁石茶に続く2例目となります。



左から「ソルトビー」の西村真寿子さん、「あまみ屋」の小島正明さん、「いごてつ」の浜田敏子さん

◆太陽と風の力だけでつくる逸品——土佐黒潮天日塩——

天日塩は、黒潮町佐賀地区から熊野浦地区にかけての海岸沿いの地域で作られています。伊与喜川から山のミネラルを含んだ水が海へ流れていくため、海水は海と山の栄養が混ざっています。また、太平洋を望むこの地域には豊かな自然が残っており、天日塩づくりに最適の環境です。

町内には「塩屋の浜」と呼ばれる浜があるように、この地域での塩づくりの歴史は古く、1333(建武2)年に始められたという記述が残っています。いったんは途絶えてしまいましたが、昭和58年、町商工会員の小島正明さんが「生命と塩の会」を立ち上げ復活させました。

ここでの製法の特徴は、製造過程で釜炊きをせず、太陽と風の力だけで水分を蒸発させるといふ点です。他のほとんどの塩が釜炊きをしているため、土佐黒潮天日塩は真正正銘の天日塩といえます。暑い日も寒い日も一粒一粒に思いを込めて、まさに「手塩にかけて」大事につくられます。

海と山の天然ミネラルを豊富に含んだ塩は、まろやかでピリツという刺激はなく、カツオのタタキとの相性も抜群です。「海から生まれてきたといわれる人間が、塩なしで生きていけないはずがありません。食べた人が元気になる、食生活が豊かになる、そんな塩をつくり続けたいですね」。

天日塩にかける思いを、小島正明さんは熱く語ります。○お問い合わせ
黒潮町商工会佐賀支所
☎55-2286

小学生の塩づくり体験

6月4日、佐賀地域の拳ノ川小学校、伊与喜小学校、佐賀小学校の3年生35名が合同で天日塩づくり体験をしました。社会科見学の授業として毎年行っているもので、訪れたのは「土佐のあまみ屋」、「完全天日干し塩いごてつ」とともに『本場の本物』に認定された天日塩をつくっている団体「企業組合ソルトビー」です。

「今日の体験がとても楽しみです」と佐賀小学校、黒田菜桜さんがあいさつ。さっそく汲み上げポンプや海水を霧状に吹きかけるタワーなどの設備を見学しながら製造工程

の説明を受けました。水分を蒸発させ、塩分が凝縮されてきた「かん水」をなめてみた児童たちは、「しょっぱい！」と大はしゃぎです。その後3班に分かれ、かん水のかくはん作業や袋詰め作業、塩を使った歯磨きなどの体験をしました。室温30度の結晶ハウスでのかくはん作業では、「塩も生きちゅう。やけん空気を送っちゃうがよ」という従業員の説明に、児童たちの動きはますます慎重になっていました。



中央、白く盛り上がっているのが塩の結晶です。

理事の西村由美子さんは、「体にやさしく安心して食べられる天日塩。手間ひま掛けて作られていることを伝えたい。おいしいと言われるのが喜びです」と話してくれました。できあがった塩を見つめる児童たちに、その思いは十分伝わった様子でした。

交通安全教室を実施しました

4月15日から順次、町内の全部の保育所および小学校を対象に、春の交通安全教室が行われました。

新入学や新学期などで環境が変わりこの時期は、交通事故の危険性も高くなっています。保育園児は信号機の見方や横断歩道の渡り方、小学生は自転車に乗る際の注意事項など、実技を交えながら学習しました。

「右を見て左を見て。もう一回右を見て、来てなかったら渡るが！」くじら保育所で行われた教室では、制服姿の警察官が見守る中、少し緊張した様子で横断歩道を渡る練習を繰り返していました。

「命は一人にひとつだけ。その命を守るのは自分ですよ。分かりましたか？」の問いかけに「はい！」と元気に答えました。



「青になったけん渡るで。手はピンとまっすぐに上げて！」子どもたちは真剣そのものです。

「カツオのタタキ」キャラクターツーグッズができました

昨年度、黒潮町では県の産業振興推進総合支援事業を活用して、カツオを使った新商品の開発や佐賀どれカツオのPR活動などの取り組みを行いました。

その取り組みの一環として生まれたのがカツオのPRキャラクター『たたかれ隊』です。すでに缶バッジやカードになっていきますので、お目にかかっている方もおられるかもしれません。デザインは高知新聞に連載中の「きんこん土佐日記」でおなじみの漫画家、村岡マサヒロさん。



かわいい「たたかれ隊」の缶バッジができました。

この缶バッジは「タタキづくり体験」をしていただいた方全員にお配りしています。缶バッジには次回来場時の割引カードが付いており、裏にはカツオのタタキができるまでの漫画「たたかれ隊物語」が描かれています。



缶バッジに付いているカードは、100円の割引券となっています。



カツオふれあいセンター 黒潮 一番館
〒776-0110 鹿児島県黒潮郡黒潮町黒島 374 番地
TEL/FAX: 0995-53-5810
営業時間: 午前9時～午後5時
※休日は、お休みです。詳しくは、ホームページをご覧ください。
http://www.tosafareai.com/ 観光情報はこちら

また、黒潮一番館でお食事をしていただいた方にはポストカードをプレゼントいたします。友人や知人に郵送していただくことで、受け取った方にも黒潮町をPRできるという仕組みになっています。こちらが割引券となっています。ですので黒潮一番館の宣伝効果が期待できます。

缶バッジをもらったお客さんは、「かわいい」「これは流行る」と評判も上々。「切っぴつ」「あぶつて」「たたいて〜ん」と訴えるつぶらな瞳からは目が話せません！

お問い合わせ

黒潮一番館
☎ 55-3680

大方中学校が職場体験

5月10日から14日までの5日間、大方中学校の3年生69名が職場体験を実施しました。派遣先は生徒たちから希望をとり、事業所と学校との間で交渉し決定します。職種は美容室やスポーツ店、小学校などさまざま。ほとんどの生徒が仕事するのは初めてのようでしたが、自分が体験してみたい、興味を持っている職場とあつて、みんな真剣なまなざしで業務をこなしていました。

保育所で職場体験をした松岡紗希さんは「子どもが好きなので保育所を希望しました。大変だけど楽しかった。将来は保育士になりたい」と話してくれました。園児たちに囲まれながら夢を語る姿は、仕事をすると大変さややりがいを感じ取っている様子でした。



「先生好き？」の質問に園児たちは、はずかしそうにうなずいていました。

給食センターで職場体験をした森本鯨太くんの作文より一部抜粋

三日目に入ると一日目とは違い別人のように活動できたと思います。けれど、立ちっぱなしは大変で休憩の時間がとてもうれしかったです。一つ一つの作業が一日目に比べてだいぶ早くなりました。小学校へ行き、食器を回収する手伝いもしました。作業は蒸し暑い中で作業が大変でした。この日からだいぶ疲れがたまり始めて8時に寝てしまいました。

四日目以降は疲れのためにミーティング中に眠りそうになりました。けれど作業は早くなり、一つ一ついい感じにしようという心がけました。この職場体験学習はすばらしい経験になりました。僕のものからの人生に大きな影響を与えていると思います。僕の一生涯の思い出になります。皆さんありがとうございました。



割烹着姿がかっこいい！

「子ども広場」で磯遊び

「子ども広場」は町内の小学生を対象に、豊かな自然にふれあうこと、そして学区を越えた交流でお互いの親睦を深め合うことを目的に、町少年補導育成センターが主催で行われる事業です。

年10回程度計画されているうちの第1回目は、西土佐の小学生といっしょに佐賀の「塩屋の浜」で、宝探しや海の生き物採取などをして楽しみました。当日集まった子どもたちは66人。開会のセレモニーが終わると、釣り竿やバケツ、虫取り網などを手に勢いよく岩場へと駆け出し、「ウニがおる！」「おっきいナマコ！」と歓声を上げていました。中には、服のまま海に飛び込む子どももあり、捕まえた生き物を見せ合うなど、みんなすぐ打ち解け合えた様子でした。



海の生き物を10種類捕まえるゲームにみんな夢中です。